

基礎演習 3

責 任 者・コーディネーター	薬科学講座天然物化学分野 田浦 太志 教授		
担当講座・学科(分野)	薬科学講座(創薬有機化学分野、天然物化学分野)、病態薬理学講座分子細胞薬理学分野、医療薬科学講座(創剤学分野、薬物代謝動態学分野、衛生化学分野)、臨床薬学講座(臨床薬剤学分野、情報薬科学分野)		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 22 時間 (11 コマ)
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・ねらい

3 学年後期には医療系科目をはじめ実践的な科目が多く配置されており、それらは既修得科目と密接に連携している。本科目では、3 学年前期に履修した対象科目について、演習等を通じて要点を整理することで、基本的知識のさらなる強化を図る。さらに、得られた知識基盤をもとに科目間の連携を意識しつつ学修することで、3 学年後期以降の関連科目についてより深く理解できるようになる。

・学修目標

本講義が対象とする既履修科目の主要な学修事項について深く理解し、説明できる。

・薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）対応項目

基礎薬学分野：化学および生物系の薬学専門科目の対応項目
 医療薬学分野：医療、製剤および薬物動態系の薬学専門科目の対応項目
 衛生薬学分野：衛生系の薬学専門科目の対応項目

・学修事項

本講義では、演習等を通じて下記既履修科目の主要な学修事項に関する知識の定着をはかる。
 有機薬化学 3、生薬学、医療薬学 1、医療薬学 2、薬物動態学、薬物送達学、感染症学、保健衛生学

・この科目を学ぶために関連の強い科目

有機薬化学 2、生化学 3、薬理学 2、化学療法学 1、免疫生物学、創剤学 2、薬物速度論、食品衛生学、環境衛生学

・この科目を学んだ後につなげる科目

有機生体制御化学、天然物化学、医療薬学 3、医療薬学 4、医療薬学 5、薬物動態解析、医薬安全性学、医薬情報科学、化学療法学 2、毒性学

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/4	金	3	臨床薬剤学分野	高橋 宏彰 講師	3 年前期に開講された「医療薬学 2」の範囲についての復習と問題演習 1. 「医療薬学 2」を通じて修得した知識について、確認テスト及び演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、Moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題をレポートとして作成・提出し自己学修しておくこと。
9/11	金	4	創薬有機化学分野	辻原 哲也 准教授	3 年前期に開講された「有機薬化学 3」の範囲についての復習と問題演習 1. 「有機薬化学 3」を通じて修得した知識について、確認テスト及び演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、Moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題をレポートとして作成・提出し自己学修しておくこと。
9/18	金	2	臨床薬剤学分野	高橋 宏彰 講師	3 年前期に開講された「医療薬学 2」の範囲についての復習と問題演習 1. 「医療薬学 2」を通じて修得した知識について、確認テスト及び演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、Moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題をレポートとして作成・提出し自己学修しておくこと。

9/29	火	3	薬物代謝動態学分野	寺島 潤 講師	3 年前期に開講された「薬物動態学」の範囲についての復習と問題演習 1. 「薬物動態学」を通じて修得した知識について、確認テスト及び演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、Moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題をレポートとして作成・提出し自己学修しておくこと。
10/14	水	4	薬物代謝動態学分野	寺島 潤 講師	3 年前期に開講された「薬物動態学」の範囲についての復習と問題演習 1. 「薬物動態学」を通じて修得した知識について、確認テスト及び演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、Moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題をレポートとして作成・提出し自己学修しておくこと。
10/21	水	3	創剤学分野	杉山 育美 准教授	3 年前期に開講された「薬物送達学」の範囲についての復習と問題演習 1. 「薬物送達学」を通じて修得した知識について、確認テスト及び演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、Moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題をレポートとして作成・提出し自己学修しておくこと。
10/28	水	4	衛生化学分野	米澤 穂波 助教	3 年前期に開講された「保健衛生学」の範囲についての復習と問題演習 1. 「保健衛生学」を通じて修得した知識について、確認テスト及び演習等を通じて要点整理することができる。

					習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、Moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題をレポートとして作成・提出し自己学修しておくこと。
11/11	水	4	天然物化学分野	浅野 孝 助教	3年前期に開講された「生薬学」の範囲についての復習と問題演習 1. 「生薬学」を通じて修得した知識について、確認テスト及び演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、Moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題をレポートとして作成・提出し自己学修しておくこと。
11/18	水	4	天然物化学分野	浅野 孝 助教	3年前期に開講された「生薬学」の範囲についての復習と問題演習 1. 「生薬学」を通じて修得した知識について、確認テスト及び演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、Moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題をレポートとして作成・提出し自己学修しておくこと。
12/2	水	3	分子細胞薬理学分野	藤原 俊朗 講師	3年前期に開講された「医療薬学1」の範囲についての復習と問題演習 1. 「医療薬学1」を通じて修得した知識について、確認テスト及び演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Google Forms、Moodle)】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題をレポートとして作成・提出し自己学修しておくこと。

					ートとして作成・提出し自己学修しておくこと。
12/8	火	3	情報薬科学分野	氏家 悠貴 助教	3年前期に開講された「感染症学」の範囲についての復習と問題演習 1. 「感染症学」を通じて修得した知識について、確認テスト及び演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT（Google Forms、Moodle）】 事前学修：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題をレポートとして作成・提出し自己学修しておくこと。

・ディプロマポリシーとこの科目の関連

1. 薬剤師として医療に携わる職業であることを理解し、高い倫理観と豊かな人間性、及び社会の変化に柔軟に対応できる能力を有しているもの。	
2. 地域における人々の健康に関心をもち、多様な価値観に配慮し、献身的な態度で適切な医療の提供と健康維持・増進のサポートに寄与できるもの。	○
3. チーム医療に積極的に参画し、他職種の相互の尊重と理解のもとに総合的な視点をもってファーマシューティカルケアを実践する能力を有するもの。	
4. 国際的な視野を備え、医療分野の情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に資する総合的な素養と能力を有するもの。	○

・評価事項とその方法

各講義で実施される確認テスト（85％）とレポート（15％）で評価する。確認テストは10から15問程度で、MCQ形式を基本とするが、数問の論述式問題を含む場合がある。確認テストの解答解説はその講義中に実施する。また、レポートの記載事項が不適切な場合はメールにより指導する。なお本科目の学修事項はディプロマポリシー2および4に関連する。 評点算出にあたっては、各講義で実施される確認テストの総合平均が70点（100点満点換算）を超えた者にのみレポートの点数を加算し、その合算値を最終評点とする。確認テストの結果は実施後速やかにMoodleサイトを通じて各学生に通知する。確認テストの未受験やレポートの未提出については、初回講義で通知する評価方法に基づき減点する。この講義の定期試験は実施しない。しかし、評点が60点未満の場合は再試験を実施する。
--

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	コアカリ・マスター [改訂第9版]	薬学ゼミナール 編集	薬学ゼミナール	2024

教	対象とする既履修科目 の教科書や講義資料			
---	-------------------------	--	--	--

・ 特記事項 ・ その他

各コマに対する事前学修、事後学習にはそれぞれ 60 分程度の時間を要する。さらに、本科目終了後には総復習の時間を 1 時間程度確保し、不得意項目等の事後学修に充てること。講義に関する情報は Moodle サイトにも公開しているので必ず確認しておくこと。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

本講義の一部は、大学病院における薬剤師の実務経験を有する教員が担当し、医療薬学分野に関する実践的な教育を行う。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン	1	デジタル板書およびスライド投影のため